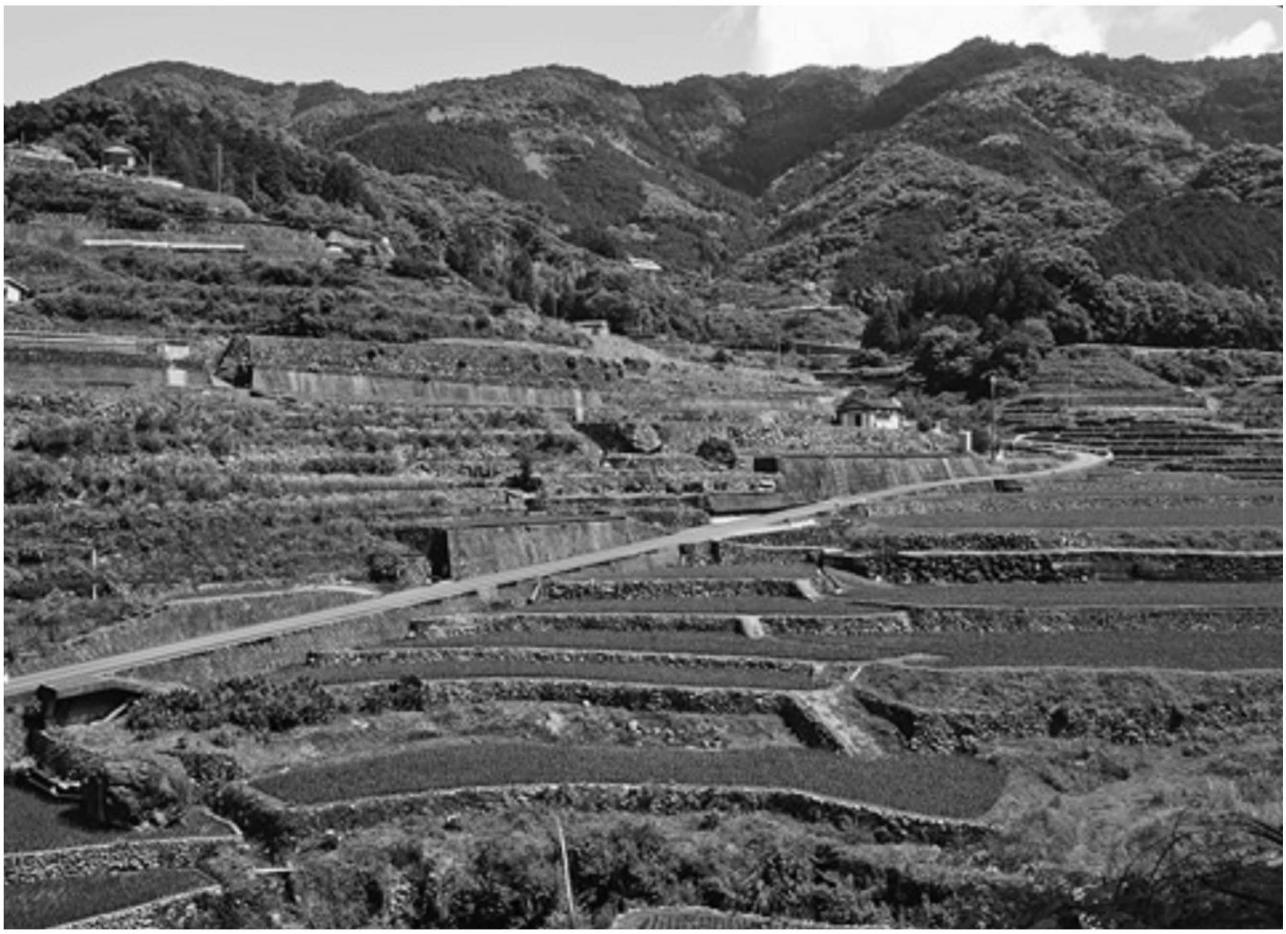
図　版

1　椨原街道が通る布施ヶ坂。この坂道を登ると四万十川流域に入る。（津野町船戸）

2　昼夜の寒暖差が育む良質の茶園。（津野町船戸）

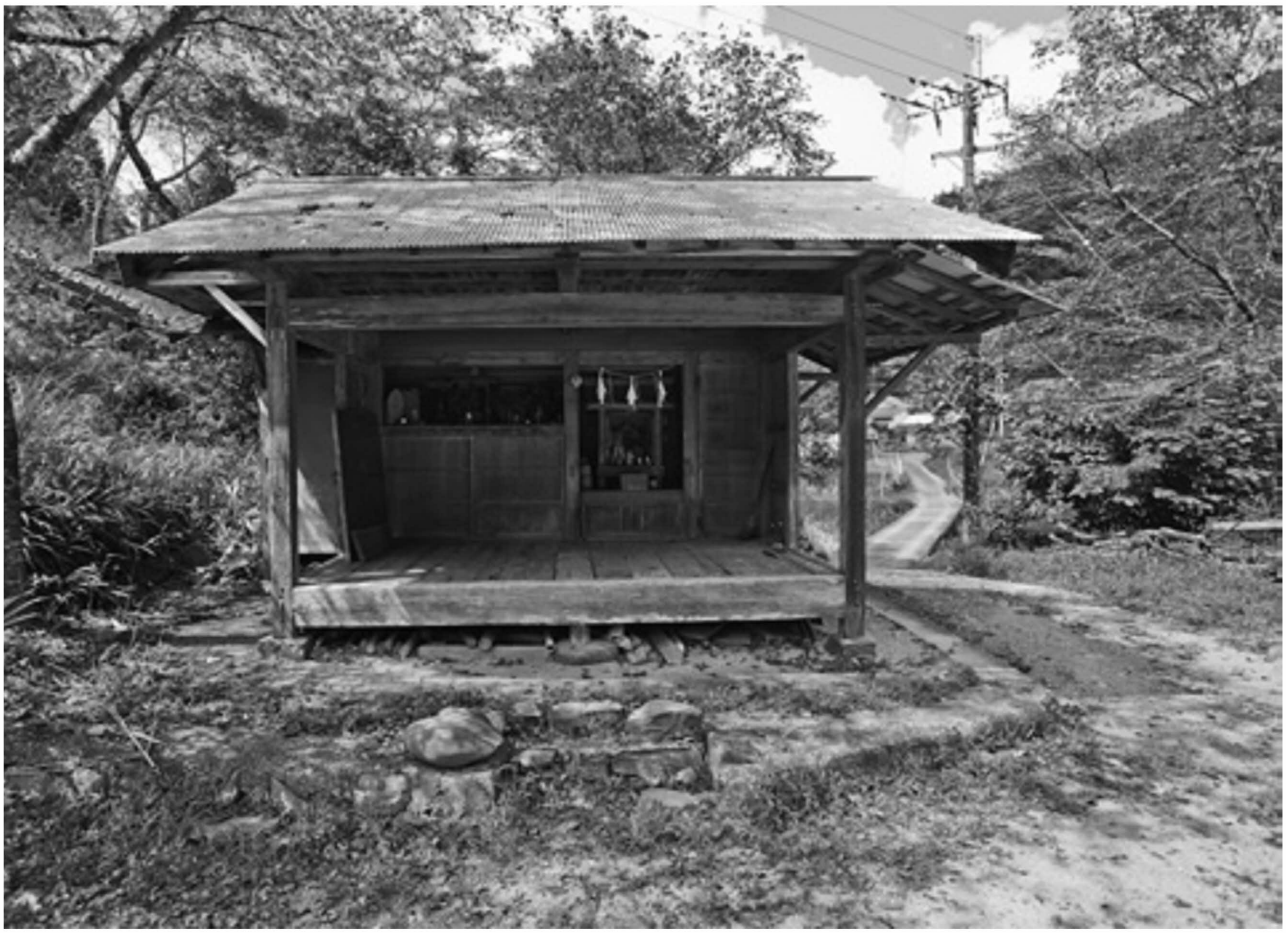


３　秩父帯の崩落しやすい地質帯に築かれる石積みの棚田。（津野町樺の川）

４　水源として開墾することなく残されている棚田上部の山林。（津野町貝ノ川）

5　伊予への辻に立つ茶堂。対面にはイノシシ調理小屋があり、集落の寄合の場となっている。（梼原町茶や谷）

6　梼原町中心部への降り口に立つ町組の茶堂。（梼原町梼原）



7　集落から沈下橋を渡った先に、旅人を迎える茶堂が建つ。（四万十町大正中津川）

8　慶応元年建設の茶堂。間口中央に柱が立ち、祭壇と炉の空間が分節される。（梼原町川西路）

9　奈路天満宮の大祭。（中土佐町奈路）

10　子供の無病息災も祈願する。（中土佐町奈路）

11　西区三嶋神社の大祭。伊予文化の影響を示す牛鬼。（梼原町竹の藪）

12　高南台地の農地を潤す越行堰と用水路。上流に一斗俵沈下橋が架かる。（四万十町壱斗俵）

13　昭和 10 年に完成した一斗俵沈下橋。下流側に堰が築かれたため水深が深い。（四万十町壱斗俵）

14　四万十川中流域を象徴する穿入蛇行。（四万十町河内）

15　細長く伸びる支尾根。下流域に近くなると蛇行部に河原が見られるようになる。（四万十市岩間）

16　四万十川の蛇行跡を利用した農地。昭和 35 年まで森林軌道・大正林道下津井線が横断していた。（四万十町下津井）

17　竹笛を吹きながら練り歩く牛鬼。（四万十町下津井）

18　各家々で無病息災を祈る。（四万十町下津井）

19　大正 13 年に敷かれた森林軌道・黒尊林道。（四万十市奥屋内）

20　黒尊川の水流を利用していた水車製材所跡。（四万十市奥屋内）

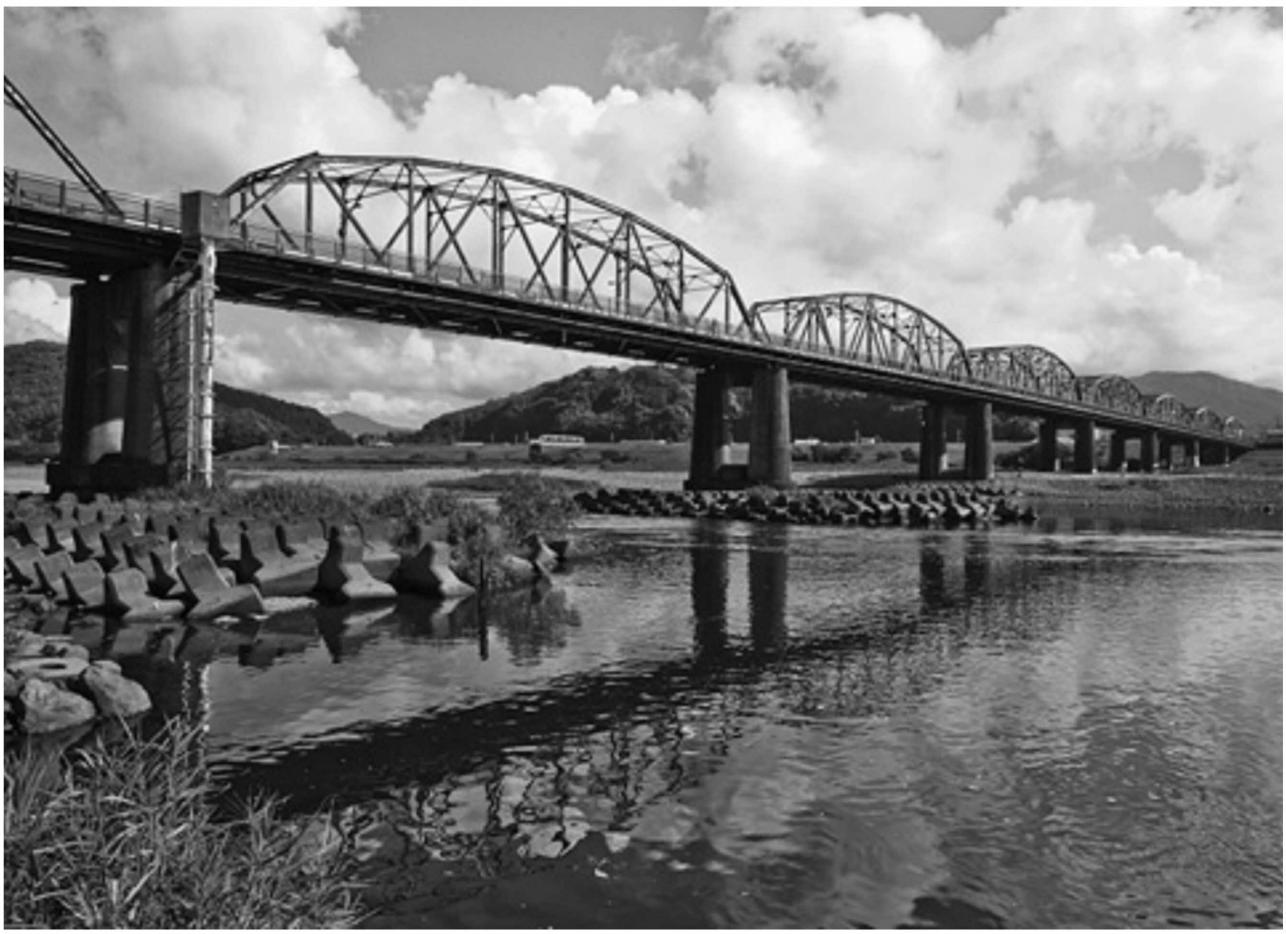
21　黒尊林道跡の道路整備のため、四万十川の川砂利を集めてトラックに積載した施設が右岸に残る。（四万十市口屋内）

22　森林軌道の廃線に合わせて建設された屋内大橋。渡し舟時代の船着き場へ続く坂道が交差する。（四万十市口屋内）

23　四万十川上流部の橋の原形である「早瀬の一本橋」。諏訪神社へ通じる。（津野町芳生野）

24　四万十市口屋内の屋内大橋を基に設計された向山沈下橋。（四万十町上岡）

25　国道と製材工場とを結ぶ岩間大橋。材木を積んだトラックが沈下橋を行き来する。（四万十市岩間）



26　大正 15 年に竣工した赤鉄橋。帆のあるセンバも通過できる高さを持つ。（四万十市中村大橋通）

27　四万十川河口の集積港として栄えた下田。江戸時代、廻船業で栄えた豪商が軒を連ねた。（四万十市下田）

28　四万十川河口の砂州上に立地する水戸地区は明治末から下田港の中心となる。（四万十市下田）

29　町場から川辺へ通じる街路。両脇には石積み護岸とバラスブロックが立ち並ぶ。（四万十市下田）

30　下田地区の廻船問屋屋敷と木炭倉庫。湾曲する道は中村市街へ通じる。（四万十市下田）

31・32・33　汽水域の水環境と竹島川の流路州を活かしたヒトエグサ養殖場。（四万十市下田）

34　ヒトエグサ養殖は陸上輸送時代の下田の新たな生業として導入された。（四万十市下田）

35　桿が重く水にも沈むホウライチクの特性を活かし、網張りの支柱としている。（四万十市下田）

36　四万十川河口の広大な汽水域に自生するスジアオノリの採取。（四万十市間崎）

37　12 月から 3 月にかけて河川敷に設けられるスジアオノリの干し場と作業小屋。（四万十市実崎）

巻頭図版・巻末図版位置図
（アルファベットは巻頭図版に対応、アラビア数字は巻末図版に対応）